

この「高等師範に於いて行つて居たとは違つた、もつと別な方法」とは「普通教育に於ける図画取調委員会」の項で触れた新しい教員養成法をさすと思われる。

次に、教授就任早々の白浜の講義について言うと、明治三十年代の東京美術学校では図画教員志望者（日本画科、西洋画科、図案科の生徒に限る。）は最終学年で「教育学」を履修することが義務づけられており、白浜は教授就任とともに蔵原惟郭に替つてこの科目を担当したが、その講義については現在西方春叢の筆記ノート（明治三十五～三十六年筆記）が残っている。その内容項目を掲げればおよそ次のとおりである。

序論 講義方針、日本教育史大要、西洋教育史大要、学校教育の現状

教育学大要

図画教育

普通教育図画の歴史 ペスタロッチ、ヨハン・ラムザウエル、ペートル・シュミット、フリードリッヒ・オット、ジュフイ、フランツ、ラインの方法

諸説に共通の理念および日本の現状

図画を普通教育に加える理由

図画教授の順序 臨画、写生画、幾何画（幾何画法、投影画法、陰影画法、透視画法）、考案画（図案、作画、作画準備としての記憶画）  
教授の実際 教授科目の連絡、教材の選択、講話、教授用備品および設備

小学校、中学校、高等女学校等の図画に関する諸規定

教材および教授法 毛筆画、鉛筆画、水彩画、用器画  
教師の心得

図画教育参考書

白浜は教授としてだけではなく、既述の図画取調委員会や翌三十年の小学校図画国定教科書編纂委員会、文部省図画教授法講習会、図画教育会などを舞台として活躍した。三十七年発行の国定教科書『毛筆画手本』の挿画は白浜の執筆である（『鉛筆画手本』は小正太郎）。その間、各地の学校の実情調査を行い、また、西欧の図画教育理論の研究にもつとめ、留学後図画師範科初代教授となる。

#### ① 下村観山の英国留学

明治三十五年八月一日、教授下村観山は二ヶ年の英国留学を命ぜられ、日本画家として初めて国費留学の途に着くこととなった。特に日本美術院の有力メンバーである観山が選ばれたのは正木校長の政治的配慮によるものと思われる。この決定に対しては日本画法を破壊するとか国費濫用だとかの議論が起こり、新聞にもそれが取り上げられているが、『都新聞』（同年九月二十三、二十四、二十六日）は好意的に扱って観山の談話筆記を掲載している。これは観山の考えを知る数少ない資料の一つであるだけでなく、特に同じ美術院で横山山観や菱田春草が朦朧体の悪評を蒙りながら日本画革新の運動を続けていた時期の観山の考えを知る材料となるのでここに掲載する。

#### ○下村観山氏の覚悟

東京美術學校〔日本画科最初の〕留學生下村觀山氏が洋行前の覺悟へ人の

均しく知らんと欲する所ならん 氏ハ留學の命に接すると共に郷里に赴き久しく滞在せしが此程歸京したるを以て昨日、谷中の美術院に訪ひ左の問答を試みて其所見を聴き得たり

文中(問)ハ記者にして(答)ハ氏なり

(問) 貴君が今迄研究された日本畫にハ不十分な所寧ろ缺點があるとお思ひですか

(答) あると思ひます 日本畫ハ餘程進んだ所もあるが足らない所があつて夫ハ日本でハ獲難いやうです

(問) 日本畫の缺點を補うため何ういふ方面を御研究のお積りですか

(答) 富國こくちで考へた事と外國ぐわいこくへ行つてからとハ餘程違ふものですから今茲で確と申上げる事ハ出来ませんが水彩畫が日本畫に一番近い所があるやうですから是を習つて見やうと思ひます 夫にハ英吉利いぎりずが可いやうです 併し水彩畫計りで終る考でハない 弘く彼地あちらの古畫なり新畫なりを視察して歸りたいと思ひます

(問) 其足りない所とハ何んな所です 譬へバ色ハ如何です

(答) 色でハ無論日本畫ハ不完全と云はねばなりません 是迄の日本畫の主義ですと不完全とハしなかつたやうですが其理由ハ今日から言ふ事がありハしないかと思はれます 橋本先生も言つて居られる通り西洋へ行くと其儘探つて來る、此節のは油畫風だといつて非難されますが自然に傾くと左様なるかも知れません 併し西洋畫を其儘探つたやうになるのは低い事で素人を

して左様感ぜしめるのは技術家の恥辱だと思ひます 斯ういふ事がありはしませぬでしようか 足利時代に起つた日本畫の骨とする所が西洋畫に缺けては居ないかと思はれますが……足利時代のは日本畫の非常に大事な所であつて日本畫は彼の足利時代の雪舟、雪村の手法やうかたがなくなつたら即ち日本畫が敗れてしまつたので洋畫を全で採るか如何かするより外に仕方のない實に情けないものになつて了ふと思ふのです 此處の所が非常にむづかしい……日本固有の儘でもつて來て居るのを今日世界各國が交際ひするやうになつたので其中にハ大に非難するものが多い、彼地あちらでも日本畫の長所を知つたものハ日本畫の一特色として喜びますが非常に不自然なものですから日本畫を非難するものがあるやうです

(問) 日本畫で光線ハ如何でしよう

(答) 水彩畫でも同じ材料ですからいかぬことハありません 尤も油畫あぶらえハ全く違ひますが……油畫ハ厚味がありまして是を西洋畫の長所すると日本畫ハ及ばないと云はねばなりません、西洋畫ハ大變材料が佳いと私ハ常に羨ましく思つて居ります

(問) 油畫の材料ハ日本畫に調和することが出来ますか

(答) 夫ハ材料問題でありますけれども凡て日本畫の材料ハ油畫から見ると非常に損のやうです

(問) 油畫と日本畫との繪具の相違ハ何んなものです

(答) 同じ胡粉ですから全く違ひはありませんが概していふと日本ほんのハ暗く西洋のハ明るいのが多いやうです 夫れと今一つ日本ほんのでハ油でないために塗つた時と乾いた時とハ餘程違つて了

いますが西洋のハ少しも變りません 誰か塗料の發明家があつて佳いのを發明してくれると可いのですが……今でも随分不自由を感じて居ます 困ります 實に不便です

(問) 繪具の外に日本畫の缺點と氣付かれたの何んな所です

(答) 是迄西洋畫の寫眞杯を見まして日本畫を見ると日本畫では……日本人の性質か知りませんが襖畫を餘り練るといふことをしないやうです 所謂一氣呵成で佳かつたのかも知りませんが其練らない弊かして大体ハ佳いところがあつても部分迄ハ届いて居ないやうに思はれます 殊に今のハ概して斯ういふ傾があります 尤も古畫の佳いになると其届かない所があつても一向見立ちません 高い調子があつて打ち消して居るのです 所が西洋畫を見ると大体もよければ部分もよく出来て居つて能く彼れまで出来るものだと感心されるのです 夫れは寫生とか解剖とかいふものから出て來たためだらうと考へて居りますが……夫で私は海外へ行つたら研究の方法を見て何ういふ教へ方をして彼んな結果を生むやうになつたか、夫を知りたいと考へて居ります

(問) 研究上、第一に目を着けて居られる所は何處です

(答) 組織を立て、申す事は出来ませんが色杯も能く調べて見たいと考へて居ります 西洋畫は今でも寫眞で見ても居りますが寫眞では色ものでないのですから何んな色を使つてあるのか能く判りません 夫で私が海外で一番見たいと思つて居るのは色であります

(問) 西洋畫研究の眼目とも云ふべき所は

(答) 一時は全く西洋のものになつて了はふと思ひます 西洋に居る間は何うしても洋風に醉ふやうになるでしょうが……實を申し上げれば未だ研究の目的は立つて居りませぬ 何故かといふと我々が大事だと心得る所が日本畫に一つあります 夫で一旦西洋のものになつて了つて雙方を研究した結果が初めて畫の上に現はれるのでハないかと考へて居ります 自分でハ種々考へて居る事がありますが他人へ話すとなると言葉でハ申し上げられません 前申す通り雙方を研究して何か一つ變つた所が出来るか如何か 自分でハ信じて居りますが未來の事ハ判りません 兎も角外國へ行つたら一時全く向ふのものになつて見たいと思つて居ります 是と同時に亦是迄習つた所も決して棄てられまいと思つて居ります

(問) 西洋へ行つて何ふすると決つて居りますか

(答) 學校へ這入れ、這入らうと思ひます 或ハ水彩畫の非常に佳く出来る大家と油畫の大家とに何つちか一人でもいゝからずうツと從つて研究して見たいと考へて居ります 夫からハ後で一通りの遣り方を研究して弘く見たい積りです

(問) 西洋畫でハ何處等あたりがお好きですか

(答) 皆佳く見えます 殊にミレー杯のハ木炭畫が尤も寫眞で見ただけから能くハ判りませんが日本畫らしい所があつて草稿らしい例へば草刈圖杯といふのが佳く感じます ミレー杯のハ日本人の有難がるやうな足利時代の風があるやうに思はれます 何ふも私しハ左様でないかと思ひます 斯んな事を言ふと叱

からるゝかも知れませんが

(問) 西洋畫の何處を持つて來て日本畫に調和しやうと思ひますか

(答) 是ハむづかしい事です……まあ試みに言つて見るのです  
が今日でハ人物でも解剖上から見ると悪いといふ非難がありま  
して是迄の名畫なり佳い彫刻なりが皆是がために破れて了ひま  
す 併し奈良邊りの佳い彫刻を見ますと例へば片方かたぐの手が長く  
て全体の均齊つらあひが採れて居ないので少しも悪くハ見えません  
手が膝まで引摺られて居るのハ解剖上から見ると不完全だと云  
ふのですけれども夫が唯見ると如何にも佳いやうに見えるのハ  
何んなものでしよう 是が問題だらうと思ひます 足利時代の  
少し密な所を見ても解剖や遠近法扱は悉く欠點だらけですけれ  
ども何故か佳く見えます 是は何故能く見えるか知りませんが  
彼の儘に解剖や遠近法を完全せしめたなら尙一層巧いものが出  
來はしないかと思ひます□〔一字欠損〕は私しの考へ丈けですが如何いかでしよ  
う 斯う遣ると全く壞れて了ふものですか知らぬ 西洋の宗教  
畫の完全したのになると手を合はせて自然に頭の下るのがあり  
ます 部分の美が行き届いて居るのです 左様すると如何いかして  
も出来る譯だと思ひますが……私しは今度の西洋行きが決り  
ます前確か一昨年でしたフエノロサ〔明治三十年四月〜同三十三年  
八月日本滞在〕に會うてラハアエル當時の研究法を聞いたことが  
ありましたが判りませんでした 西洋むかよのを見ないでいふと何で  
すが今日の西洋畫は自然といふ事に傾き過ぎモデルに拘泥して  
居つて神様を畫いても人間臭くて頭が下がらないやうな感じが

あります 古人は高い理想を持つて居つてモデルを利用したの  
ですが此節はモデルから神様が出るやうになりました 是は畫  
を描く人の考へであるのでしようが西洋の古畫を見るとマリヤ  
ハマリア丈けの威嚴があつて形杯も指の先迄注意が届いて居り  
ます(終)

觀山は翌三十六年二月二十日出発。同三十八年三月、ロンドンで  
の勉強を終え、フランス、オランダ、ドイツ、オーストリア、イタ  
リア、ボンベイを経て十二月十一日帰国。ジョン・エヴァリット・  
ミレー筆「ナイト、エラント」模写、ラファエル筆「まひわの聖  
母」模写等はこの間の勉強の成果である。

#### ⑫ 生徒心得の改正

明治三十五年三月二十四日、右の改正がなされたが、単に第五  
条中の「五日以内ハ各自ヨリ其五日ヲ超ユルトキハ」と「若シ之ヲ示  
サマルトキハ門衛ヲシテ入門セシメザルコトアルベシ」の語句が削  
除されたのみである。

#### ⑬ 山名貫義の死去

東京美術学校近事(140頁)に記されているように、日本画科教授山  
名貫義は明治三十五年六月十一日に死去した。『東京美術学校校友  
会月報』第一卷第二号(同年七月)の巻頭には肖像写真と次の追悼記  
事が掲げられた。